

## 仙人通信 154 四阿屋山(771 m)

四阿屋山は、秩父の両神山から南東に伸びる尾根上に位置し、薄川と小森川に挟まれた3等三角点の山で、秩父を代表する福寿草の自生地がある事でも有名である。県道367号沿いにある薬師堂から福寿草園・四阿屋山を示す道標に従い、駐車場に車を置き、山頂をピストンする事にした。駐車場から50m程進むと山頂を示す道標があり、10m程上に尾根がある事を確認して、車道から雑木林の中を登る。この尾根道は、先程の薬師堂の近くから続く登山道である。左手には武甲山から熊倉山が右手には薄川沿いの山脈である。15分程で福寿草の自生地方面との分岐を過ぎ、杉の木立の中を進む。足元の岩は、細かく割れた泥岩質だ。この地区は秩父層群の間に出来た新第三系の地層で、宮戸・彦久保層だ。杉林を15分程詰めると、小さな社の両神神社である。社の裏に回ると**急坂に付き登山禁止**の表示だ・・・そんな・・・南面に僅かに下がる道を確認して進むと、岩壁沿いに太目の鎖が取付られている。下山して来た方に、山頂に向かうコースであることを確認して進む。岩壁は緑色の凝灰質の砂岩層でしっかりしているも、昨夜の雨で濡れたコースは急登の上滑りやすく鎖を離せない登りだ。15分程登ると尾根筋に出る。コナラ・リョウブ・ブナ・躑躅等の落洋樹にシラビソやアセビ囲まれた狭いコースを5分程で山頂である。山頂は、小天狗・大天狗を祀った小さな祠があるも、5人が立つと足の踏み場もない広さである。ほぼ360°の展望であるが、両神山の方向以外は梢越しである。雁坂嶺・両神山・二子山・赤久縄山・御荷鉾山・城峰山が、南面は武甲山から熊倉山までの峰々が確認出来た。残念ながら雲取は、シラビソの葉の陰で確認できず・・・。休憩後、先ほどの両神神社の杉木立を降りた地点にある展望台に出る。秩父御岳山の先に、雲取も確認する事できた。ミズキの落葉の中に、自生した数株の福寿草を発見し、シャッターを切った。男坂の階段を下がると、一面に花の香りを漂わせる黄色いロウバイの林だ。更にその枝の下には、黄色く見事に咲いた福寿草の**福寿草園**である。休憩後、駐車場に向かう道すがらの山肌も、紅梅・白梅・ロウバイと春満開であった。3月に入ると小森川の対岸の山肌に白い可憐なセツブンソウが咲く事から、今日の第二の目的地だ。ご存じの様にセツブンソウは、石灰質の土壤に育つ花で、他地区では栃木の星野も有名である。この地は、秩父層と呼ばれる地層でセメントで有名な武甲山や鍾乳洞で有名な日原へと繋がる石灰岩帯である。落ち葉に埋もれてこそいるが、苔や岩を押しつけて一面に咲くセツブンソウに元気を貰った気がした。昨夜の雨で武甲山や両神山が白く化粧していたがその心配も無く、四阿屋山のピストンに2時間・セツブンソウの見学に1時間の計3時間(9000歩)の早春の山旅でした。(h 29.3. 3)

山頂からの両神山



山頂



セツブンソウ

